

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年9月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675400073
法人名	医療法人一桜会
事業所名	さくらのお家
所在地	始良市蒲生町上久徳2511-2 (電話) 0995-52-8129
自己評価作成日	平成30年7月29日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年8月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらのお家は、伝統的な街並みの中の、静かで過ごしやすい場所にあります。利用者お一人おひとりの生活パターンを大切にしながら過ごす中で、ドライブにも出掛けています。また四季を感じて頂けるよう管理栄養士の立てた献立をもとに食事の提供、花見・節分などの行事を行っています。医療面では母体のクリニックと連携し、体調の変化や緊急時の対応も可能な体制を整えています。地域との交流にも力を入れており、地域行事への参加だけでなく事業所の行事にも参加いただいたり、また火災などへの協力体制も作り上げています。自治会に加入し、地域の清掃活動等にも積極的に参加し、地域の一員として認知していただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 近隣には役場や道の駅、商店街、神社などがあり利便性の良い場所にあるが、当ホームは住宅街の一角に溶け込んでおり周囲は緑の木々に囲まれユニットごとに住宅が建てられている。地域への警鐘の役割を果たすため、半鐘が設置されおり夜間の火災等への対策として役立っている。
- 母体の医療機関とは、オンコール体制があり地域医療の一端を担い、介護サービス事業所の運営にも携わっている。地区は、「かもう地区支え合い隊」(通称、「かもふあみ」)を結成し地域でつながり、地域活性化や町おこしの役を担っている。ホームは、自治会に加入し、回覧版や運営推進会議を通じて地域の情報収集や共有をして地域の清掃活動や花見などの地域行事に参加したり、サロン活動や運動会見学に行くなどしている。また、夕涼み会や避難訓練を通じて地域の方との交流活動をしている。
- 職員は、毎年度の専門研修年間計画の中で自主的に研修に参加できるよう取り組んでおり、職員間や各部署の関係性作りや親睦、また、理念達成を目的にしており、知識や技術の研鑽を重ね業務にフィードバックして質の高いサービスが提供できるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングや朝の申し送り時、日々のケアの中で理念に基づいたケアが実践できているかを常に話し合い、共有しながら取り組んでいる。	開設当初からの理念であり、共有スペースに掲示され重要事項説明書に記載し、契約時に利用者、家族に説明している。管理者は、半年に1回職員の面談時に理念に沿ったケアを実践できているかどうか把握し、ミーティングなどで理念に触れる機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、地域の清掃や花見・運動会へ参加している。事業所の行事（夕涼み会・防災訓練等）に参加して頂いている。	自治会の総会に参加し、回覧版を通じて地域の情報を共有している。毎月サロン活動に参加したり、中学生のボランティア、高校生の福祉体験学習を受け入れ、地域の清掃活動や行事にも参加している。また、近所の方から野菜などの差し入れをいただくこともある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通じて、認知症についての話や介護保険についての説明を行っている。問い合わせがあればいつでも対応できる体制を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催している。年2回は家族会と一緒に開催し意見交換をしている。	家族が会議に参加しやすいように母の日や敬老会などの行事と同日開催してなるべく多くの家族に足を運んでもらえるよう日程を工夫している。また、避難訓練も同日開催し消防署員も参加している。議事録は、欠席の家族にも送付し情報を共有するよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の介護課と地域包括支援センターの職員が運営推進会議の委員として会議に参加し、連携を取っている。</p>	<p>市担当者や福祉事務所職員との相互の連携や協力体制があり、市とは、町おこしの一環である、かもう地域支え合い隊のメンバーとして福祉教育や徘徊模擬訓練などの活動に積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>個別のケースごとに話し合いながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。法人内に身体拘束廃止委員会を設置している。</p>	<p>午後6時からの法人全体の定例ミーティングや年3回の基礎研修（新人向け）を実施。月1回は、ホームでのミーティングを実施し、個別カンファレンスにて身体拘束をしないケアの実践について話し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入職時の基礎研修で虐待について学ぶ機会が確保されている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全体ミーティングにおいて外部から講師を呼び、権利擁護に関する研修を行った。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、重要事項説明書と契約書を家族に理解頂けるよう説明し同意を頂いている。改定等があった時は、改めて説明を行い同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者との日々のコミュニケーションの中で意見等言いやすい関係作りに努めている。家族の来訪時や家族会の中で要望や意見については随時話し合い、解決に努めている。</p>	<p>前回外部評価の結果を受けて、より一層家族との関係性を深め、意見や要望などが忌憚なく出せるよう取り組んでいる。家族とは、面談や電話、手紙を通じて積極的に連絡を取るようしており、管理者や職員は、家族の立場に立って物事を推し量るよう努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>部署ミーティングや申し送り時に職員の意見を出し合い、必要な意見や提案を管理者が主任会等で上申している。</p>	<p>人事考課システムがあり、年間の目標を設定し、個々の目標が達成できるよう取り組み、サービスの質の向上を目指している。また、職員の親睦を深め職場環境を整えるため食事会やグランドゴルフなどがあり、働きやすい職場を目指している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>半期ごとに人事考課として責任者との面接、チェックシートを使った業務の実施状況の確認などを行い、各自が前向きに業務に取り組むことができるような仕組みを作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の全体会議、部署会議の中で定期的に研修を行なっている。新入職者には基礎研修、管理者には管理者研修を実施している。外部研修にも勤務の中で参加できるよう調整している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良伊佐GH協議会への参加やスタッフ同士の交流会を通じて情報交換をしたり、悩みを共有したり、親睦を図ったりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	話しやすい雰囲気作りを心掛け、本人の話しに耳を傾け、信頼関係構築に取り組んでいる。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族とのコミュニケーションを大事にし、話しやすい雰囲気作りを心がけ、関係作りに努める。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人、家族からだけでなく、それまで関係のあった事業所などからも情報を集め、必要な支援を検討している。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	ご本人が持っている知識、経験、技術などを尊重し、それらを十分発揮してもらえるような関わりを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、親族の行事等には本人も出来るだけ参加してもらえよう促しを行なっている。他科受診は基本的に家族にお願いをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方等には面会を勧めている。馴染みの美容室を継続して利用している。サロンには極力参加している。	家族と美容院に行ったり食事や自宅訪問、外泊などして馴染みの人との関係が途切れることがないよう支援している。誕生日の家族との外出を楽しみにしている利用者もいる。電話の取次ぎをしている方や、携帯電話を使用される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を意識し、テーブルの着座位置に配慮している。食事やお茶の時間には職員が間に入り、会話を促している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はお見舞いに行ったりして、本人様と話しをする。退院後のことなどはご家族の相談に乗る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いを大切にし、また家族からの情報を参考にして、本人本位の生活ができるように努めている。	入居前の生活歴や介護の状況を踏まえ、日常の暮らしの中で会話したり、生活ぶりを垣間見ながら本人の思いに触れたり、しぐさや表情を観察し、家族や職員と情報を共有して本人の思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話しやご家族や知人の方からの情報などで今までの生活を知り、大切にしてきたことを続けられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録の共有、職員間の意見交換、関係者からの情報などでその把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の要望を聞き、主治医、看護師、スタッフ間で意見交換しながら、情報を収集して介護計画の作成をしている。	介護計画書は、本人や家族との日々の関わりの中で、思いや意見を聞き、担当者会議などで話し合い、本人本位に検討している。また、毎月モニタリングを実施し、6ヶ月1回、カンファレンスを行い、サービス内容や目標の見直しなど柔軟におこなっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録をもとに職員間で話し合いを行い、ケアや介護計画の見直しにつなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人に必要な事柄をスタッフ間で話し合い、外出の支援、病院受診の付き添いなど、ご要望に応じられるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>行きつけの美容室の継続利用、地域のサロンへの参加などを支援している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人もしくは家族が選んだかかりつけ医と連携をとりながら、本人の健康管理を行っている。月2回在総診も実施している。</p>	<p>母体が医療機関であり、オンコール体制が構築されており、訪問看護師による健康管理が実施されるなど医療連携があり、他科受診などはなるべく家族に協力をいただくなどして適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員の情報は、看護職員や医療連携体制にある看護師を通じて主治医に伝えている。必要に応じて受診につなげている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>母体のクリニックや地域の基幹病院との連携体制を構築している。入退院時は関係者、家族と情報交換を行ないながら進めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重要事項説明書の中で重度化と終末期について説明を行い、その後も随時意思確認を行いながら方針を決めている。終末期については複数の選択肢を提示し、方針の決定を支援している。</p>	<p>「重度化対応に係る指針」「看取りに係る指針」があり、直近では昨年6月に看取りの実績がある。また、急変時や終末期における医療等に関する意志確認書にて利用者、家族、事業所間で意志確認を文書で取り交わし、早い段階から十分に話し合いながら納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人研修、避難訓練時に消防、看護師の指導の下、緊急蘇生法や対応を学び、急変・事故発生時に備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害発生時の対応マニュアルを作成している。年2回の防災訓練を実施し、地域の方々の参加を促し、協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、昼夜想定で避難訓練を実施し、運営推進会議と同時に実施したり見学していただいている。環境保全委員会があり、防災点検など定期的に実施、備蓄も確保、防災用の半鐘を設置している。地域に協力を呼びかけてはいるが、役割分担などは徹底しておらずこれからの課題である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格や個性をふまえた上で、それらを尊重した対応に努めている。排泄や入浴などプライバシーに配慮している。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ、声のトーンや大きさ、失礼のない態度で接するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が気持ちを表明しやすい関係作りを意識している。様々な場面で自己選択を促したり、選択を委ねたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、職員と一緒に好きなことを楽しんで過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	馴染みの美容室を利用したり、好みの服を自分で選んでもらったりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、味の好み、調理方法を尋ねながら行なっている。簡単な下ごしらえ、盛り付け、下膳等職員と一緒にしてもらっている。	栄養のバランスを考えた献立で、食事形態を工夫し無理なくゆっくりと食事が摂れるよう支援している。家族とも食卓を囲む機会があり、季節の花見は手作りの弁当、ソーメン流しなどの外食、たまには出前も楽しんでいる。また、家族から野菜などの差し入れもあり、料理に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立に沿ったメニューを提供している。個々の摂食能力に合わせて食事形態を工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけし、出来ない方には毎食後介助にて口腔ケアを行なっている。夕食後は義歯を預り洗浄剤に浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄リズムの把握に努め、定期的なトイレ誘導やパット交換等を行なっている。	排泄のリズムを把握し、昼間はトイレで排泄できるよう誘導しているが、夜間はポータブルトイレを併用される方もおられ排泄の自立に向けた支援をおこなっている。トイレ扉は引き戸やアコーディオンカーテンであり、開口部も広く、排泄誘導は、羞恥心やプライバシーに配慮した声かけを徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をもとに個々の排泄パターンを把握し、水分、食事内容を配慮している。状態によっては医師の指示で下剤を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の重度化が進んでいるため、1日の入浴人数を制限せざるを得ない状況である。	重度化もありユニットごとに入浴回数が異なるが、入浴は、本人の希望や必要に応じて、また、利用者の状態やその時々タイミングで入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさや室温に気をつけて個別的に支援している。日中でも眠い時は横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを作成し、職員全員で内容を把握している。法人全体で予薬マニュアルを作成し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物やおしぼりをたたむ、料理の下ごしらえなど家事に参加していただいている。好きなテレビ、音楽、体操など個々に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と協力しながら、墓参り、外食などと出掛けられるよう支援している。職員と一緒に自宅に行くことがある。	初詣やソーメン流し、季節ごとの花見、ドライブがてら紫陽花見学、案山子祭りに行くなど年間の行事計画にて外出支援をしたり、地域の運動会の見学、サロンへ参加、故郷訪問など折に触れて外出の機会を設けて職員や家族と一緒に外出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現在は自分でお金を管理されている方は居ない。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	自分持ちの携帯がある方が1名、事業所の電話を使用する方が1名居る。手紙が来たら代読している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	エアコンで空調を行いつつ、壁面は季節に応じた飾り付けを行っている、居心地良く過ごせるようにしている。	玄関や共有スペースは、落ち着きのある和の雰囲気があり、木のぬくもりが気持ちを落ち着かせてくれている。廊下は広々としており、車いす移動にも支障はないスペースである。両ユニットの利用者や職員が行き交う通路もあり、リビングからテラスに自由に入出りできる。季節の生花が活けてあったり、折り紙のひまわりの花が掲示されており、季節感を与えている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	入居者の相性に応じてテーブル席の配置やソファの着座位置を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時は使い慣れた物や思い出の品などを持参頂き、心地よく過ごせる様にしている。</p>	<p>居室のクローゼットは一間あるため、収納が十分にある。ベッドにずり落ち防止のための鈴が着けてあったり、立ち上がりを補助するための手すり設置や絨毯を敷くなどして保温に努めており、使い慣れたものなど持ち込み暮らしやすく室内環境が整えられている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の部屋が分かるように貼紙をしたり、トイレの場所を表示したりしている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない